○議長（春田　新一君）　これで針谷広己君の質問が終わりました。

○議長（春田　新一君）　昼食休憩とします。再開は午後１時５分からとします。

午前11時50分休憩

午後１時05分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

大浦孝司君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　皆様、こんにちは。会派、未来改革の糸瀬雅之でございます。お昼からの時間ですので、少々眠くなる時間ではございますけども、私の一般質問５０分間に付き合っていただきたいと思います。

新年度、令和８年度がスタートいたしました。３か月が経とうとしておりますが、皆様、御承知のとおり、中東情勢の影響により、世界的また日本国内、この対馬市におきましても、様々な影響が出てきております。コロナ禍が収束してやっと落ち着きを取り戻したかと思いきや、対馬市にとりましても、山積する課題にプラスして、また一つの頭の痛い問題が増えつつあります。

しかしながら、今を生きる対馬島民のために、行政、市議会、対馬市民一体となり、この中東情勢の問題に乗り切っていかなければならないと思います。

さて、６月１０日の冒頭でも、市長のほうから昨日お話がありましたけども、長崎新聞に、国は対馬空港、壱岐空港、福江港の３か所を防衛力強化の一環で、有事の際の自衛隊や海上保安庁による利用に備えて整備する特定利用空港・港湾に追加指定するという方向で検討しているということであり、今後は国、長崎県、対馬市が連携を取り、特定利用空港の指定実現に向けて、我々市議会も一つになり、取り組んでいかなければならないと思っております。

それでは、通告をしておりました一般質問に入りたいと思っております。

まず１点目、市長の政策についてでございます。

２０２４年４月に人口戦略会議による公表で、対馬市は２０２０年から２０５０年の３０年間で、２０歳から３９歳の若年女性の人口が５０％減少すると推測される消滅可能性自治体に該当すると公表されました。

そこで、令和８年３月定例会、私、当職の一般質問において、残りの任期、市長は「守るだけではなく、攻めてまいりたい」と最後の答弁をされました。本市の財政状況が厳しい中、消滅可能性自治体脱却に向けて、具体的にどのような攻める政策を考え、行動していくのか、答弁をお願いいたします。

２点目、対馬市における中東情勢の影響についてでございます。

本年２月以降の中東情勢の悪化により、対馬市内においても、ナフサ関連の石油製品をはじめとする各種製品、資材等の価格上昇、調達商品の不足、燃油価格の高騰に伴い、物流事業者、１次産業ほか多くの事業者や市民生活への影響が出てきております。

国の支援対策も見通せない中、対馬市として今回の危機的状況を考え、当初予算の見直しを含め一般財源や基金を活用した補正予算の検討を考えているのか、市長の答弁を求めます。

以上２点につきまして、よろしくお願いいたします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、市の財政状況が厳しい中、消滅可能性自治体脱却に向けて、具体的にどのような攻める政策を考え、行動していくのかとの質問でございますが、まず、議員御指摘の２０２４年４月に人口戦略会議により公表されました全国１，７２９自治体の持続可能性分析結果リストにより、対馬市は消滅可能性自治体に分類されており、その脱却に向けた対策は急務であることは認識しているところであります。

そのような中、本年３月の定例会において審議いただき、４月よりスタートしました第３次対馬市総合計画において、目指す未来・方針を掲げ、その方針ごとに特に力を入れて挑戦する攻めの方針と持続性を重視する守りの方針を示しております。

先ほどの２０２４年の持続可能性分析結果リストでも、２０１４年の分析との比較で、若年女性人口の推計結果においては、対馬市は減少率が８．３ポイント改善しており、消滅可能性自治体に変わりはないが、若年女性人口減少率が改善している自治体に分類されております。

また、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計において、令和２７年、２０４５年でございますけども、この年の本市の推計人口は、平成３０年時点の推計では１万３，７３１人でありましたが、令和５年時点の推計では１万５，４３４人と約１，７００人もの大幅な改善が見られております。さらに近年における移住者数が、年間１３０人から１５０人前後で推移しております。これらの結果は、これまでの人口減少対策の成果であり、今後も守りの取組として継続していきたいと考えております。

一方、攻めの取組については、企業誘致に重点的に取り組みたいと考えております。令和６年度、７年度に株式会社三陽と株式会社エスプールグローカルとの立地協定を締結し、株式会社エスプールグローカルにつきましては、事業所の整備も完了し、既に事業を開始されております。同社は、若年女性の雇用創出の場としても大きな期待をしているところでございます。

また、ほかにも数社、企業誘致についての御相談をいただいており、トップセールスを行いながらその促進に取り組んでまいります。

さらには、昨年は、サステナブルアイランドへの挑戦として、大阪・関西万博におきまして、海洋ごみ問題の解決に向けた、対馬モデルの取組を国内外に広く発信できた年でありました。

今年度は、そこで培った知見と協力いただいた企業等の力を再度結集するため、旧乙宮小学校跡地に、海の課題解決を主目的とする交流拠点となる、仮称ではございますが、「対馬ブルーイノベーションセンター」設置を計画しております。本拠点では、島内の人々の思いや島外企業の力を結集し、企業等の研究分室をはじめとした各種施設を構築してまいります。

また、観光振興面におきまして、現在進めております恒久的かつ持続可能な観光を目指すあそうベイパーク整備事業において、本年度、新キャンプ場施設の運営を開始し、今後において対州馬と触れ合える観光地としての機能を高め、曳き馬用の放牧柵整備によるアウトドアの魅力向上に取り組みます。

そのほか、対馬ならではの地域活性化を図り、市民の所得向上と福祉の充実を目指してまいります。

人口減少対策には、様々な各分野の施策を組み合わせることで、大きな効果を発揮するものと思います。市の財政状況は、非常に厳しい状態ではありますが、事業実施に当たりましては、国・県補助金等をうまく活用しつつ工夫し、組み立て、この島に住みたい、住み続けたいと思える島にしてまいりたいと考えております。

次に、対馬市における中東情勢の影響についてでございますが、本年２月以降の中東情勢の悪化に伴い、燃油価格の上昇や各種資材価格の高騰が続いており、本市におきましても、市民生活や地域経済への影響が生じているものと認識しております。

市では、４月２３日から全庁的な影響調査を実施し、市内産業や市民生活への影響について、各部局を通じて状況把握に努め、５月７日時点で取りまとめを行ったところであります。

調査結果では、燃油価格やナフサ由来製品をはじめとする各種資材価格の上昇に加え、調達遅延や供給の不安定化などの事象が確認されており、漁業や農業など１次産業をはじめ、市内産業全般に影響が及んでいることを把握しております。さらに、物流コストの上昇や物価高騰の影響も重なり、市内事業者からは、先行きに対する不安の声も寄せられております。

こうした状況を受け、国においては中東情勢の悪化による影響を踏まえ、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金や中東情勢等対応予備費を含む補正予算が成立しております。

市としましては、引き続き市内での影響把握に努めるとともに、具体的な支援制度の動向を注視しつつ、国、県と連携しながら必要に応じた予算措置を講じるなど、機動的に対応し、市民生活及び地域経済への影響の軽減に努めてまいります。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　市長、残り３５分、ありがとうございます。私も、この時間を想定しておりました。

まず、この消滅可能性自治体についてでございますけども、市長は３月の私の一般質問の際にも、これからは人口減少対策に力を入れると答弁をされました。

消滅可能性自治体というのは、先ほどの市長が答弁されていたのと、若干その部分が入ってましたけども、女性なんですよね。女性が不足をしてるということを、もう少し強調していくのかなと思ったんですけど、答弁書を作られた方は、ちょっと理解がされていなかったのかなと。いいですか、２０歳から３９歳までの若者女性ですよ。それに力を入れていかなきゃ駄目だということを私は言いたかったんですけども、まあいいでしょう。

令和３年５月、いいですか、２万９，０００人いた人口、令和８年の５月末で２万６，０００人ですね、大体。５年間で３，０００人減ってるんです。緩やか緩やかと言いますけども、もう年間６００人ずつは減っております。１０年後、これは２万人を今の状況でいくと割り込みます。

市長、出生数御存じでしょうか。子どもたちの、赤ちゃんの出生数、答えてください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今日は、はっきりとした数値は持ち合わせておりませんけども、昨年が恐らく１００人を切ったというような情報を得ているところでございます。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　そうです。例年、年々出生数はもう１００人を切っております。

今日、ちょっと市民生活部長のほうに婚姻届出数のちょっと調査を依頼して、私のほうの手元にありますけども、もう令和５年度、６年度、７年度、婚姻届も６５組が限界でございます。１００組を切っております。ですから、ここを重点的にポイントとして置かなければならないんです。消滅可能性自治体脱却という質問ですよ。

ですから、今、子育てとは、市長、出産から高校卒業まで、そして大学卒業まで、１８年間から２２年間を子育て政策というんです。

市長は、今、インバウンドの影響で韓国人観光客が増加しておりますが、交流人口を大事にしているのか、対馬島内の在住の定住人口を大事にしているのか、そちらをお答えください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このことにつきましては、どちらも大事にしたいというふうに思っておりますし、先ほど議員のほうからおっしゃられた婚姻数関係も、近年かなり落ち込んでいるといったようなことで、今、若い男性と都市部の女性等のマッチング事業にもいろいろと努めているところでございます。そういったことで、私自身も近年、若者の婚姻数が減ってきているのは本当に気になっているところでございますので、ここの点につきましても、力を入れてまいりた

いというふうに考えております。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　そのとおりでございます。そのマッチングアプリを先ほどの答弁で言ってほしかったんです。そこをやらなければ、婚姻・結婚を、やはり移住定住の、移住者、いろんな方がいらっしゃいますけども、やはり対馬の島の宝の子どもたちを増やしたい。そこをやらなければ、消滅可能性自治体にどんどん近づいていくんです。子どもに投資をする。今の子育て世代に投資をしなければ。そこをポイント、あと２年間、市長、考えていただきたいんです。いいですか、いろんな事業はあると思います。しかし、集中して子育て世代、そこをお願いしたい、私は。

そこはこれでやめときますけど、まず市長、攻める政策というのは、私、どういった市長が攻める政策を持っているのかなと。やはり現状維持、市長は今現状維持なんです。我々から見てても、現状維持の守るだけの政治しかやってないんです。俺はやってるぞと言ってますけども、攻めるのはなくて、守る政策しかやってない、今は。そうじゃないですか。

今、いろんなふるさと納税を活用した攻める子育て政策を全国の自治体はやっております。子育て、子どもたちが増えるまち、それはこの子育て世代が充実してるんです。今、長崎県で１位の大村市、これ全国でも１位です。そういったところに視察に行く、勉強に行く、そういったこともやらせてやってください、職員に。なぜうちは、当たり前のことを同じように毎年毎年同じ政策をやっても駄目なんですよ。

ですから私は、攻めろ攻めろと言っているのがそこなんです。財源を使ってでも投資をする。ほかの自治体にない一番の政策を、長崎県内で一番の政策をつくってみませんか。それを言いたいんです、攻める政策ってどういったことをやるのかなと。

よろしいでしょうか、職員の皆さんも聞いてますけども、そういった攻める政策を各部署で考えてみてください。どうやったら人が増えるのか。言われるままですよ、今の職員は。当たり前のことを毎年のようにやってても、当たり前の政策をやっていても、楽ですよ、職員は。

しかし、ほかの自治体がこうやっているということを職員が目の当たりにして、見に行って、視察に行って、そういった予算を組んでください。職員の研修の予算、市長、それ、お願いできませんでしょうか。お願いします、答弁を。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　要は、対馬市の職員のほうも、いろいろな攻めのパターンということで勉強もしておりますし、いろいろな取組もしているところでございます。

そういう中で、ここ近年、移住者数のほうも１３０名から１５０名ほどの移住者が出てきているといったところで、これは職員が福岡、東京等に行って、いろいろとまとめてきた成果であろ

うというふうに思っております。

そういったことでありますけども、今、議員から御提案のありましたさらに攻める施策等のほうにつきましては、これからまたいろいろと研究をしていって、予算等についても、そういった前向きな予算についてはつけてまいりたいと思っております。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　今一番重要な問題、重要というか、有人国境離島法の延長に向けて、今、市長も頑張られておられてますけども、昨年１２月６日に行われました有人国境離島法改正延長の対馬市の総決起大会で、この決議文で、有人国境離島地域の保全のための国の行政機関設置と防衛体制強化が明記されていますよね、この決起大会で。

そして先月、市長は５月の２７日、２８日に、長崎県国境離島市町議会連絡協議会で、５市２町ですね。東京に、市長、議長、そして国境離島活性化推進特別委員会委員長と、国に改正・延長に向けての陳情・要望活動にも行かれております。

その中でも、要望事項３番目に、国境離島地域の、やはりこれも保全に向けた空港・港湾等の整備促進及び国の行政機関である海上保安部や自衛隊の部隊体制強化が明記をされております。

今、対馬市においても、防衛施設局との間で協議を進めております旧浅海中学校の売却の問題、これはやはり国が求めているんです、旧浅海中学校の売却に向けて。市も前向きに考えている。まさしく今、この明記されている対馬市として防衛省関連施設の設置、そして自衛隊誘致を早急に進めなければならないんじゃないんですか。

今、ストップしてますよね。昨年の１１月から、これ、ずっとストップしております。いいですか、それをやはり対馬空港の今、特定利用空港の指定実現とセットで対馬市が、これ最後、市長の仕事ですよ。これをやりましょうよ。

そして、積極的にこれを進めなければ、対馬市は自分たちの要望ばっかりを国に伝えても、国がお願いすることを、そういった姿勢を対馬市も見せなければ、対馬市は様々な補助事業や、国は対馬市を相手にしませんよ。自分たちの要望ばっかり言っても、国が要望してきてるのに、国はそう思ってますよ。ですから、我々は市長に、動いてください、動いてくださいと何度も言ったですよね。スピード感がないんですよ、今の市長、副市長に。

今、どういうふうな旧浅海中学校の状況、どのようになってますか。どなたか答えられる人いますか、今の状況。俵副市長、大丈夫ですか。答えてください。

○議長（春田　新一君）　副市長、俵輝孝君。

○副市長（俵　　輝孝君）　旧浅海中学校の自衛隊への売却については、昨年度合意が得られなく、自衛隊の関連予算もできないということで落としております。自衛隊のですね。昨年度からいろんな話を、地区と私たちと防衛施設局、自衛隊ともに、集会を３回でしたか、話をした中で、や

はり……。（「その後の問題です」と呼ぶ者あり）４月ですか、鴨居瀬地区から要望書的なものが、提案がありました。それで、そのときにお答えしたように、小船越区長も替わったので、改めて小船越地区のほうに出向きますということで、出向いております。６月の５日、区の役員会で協議を進めております。

そのときに、自衛隊……、防衛施設局、対馬市共に、対馬市は売却を考えている、防衛施設局としては購入をしたい、その意向は小船越地区のほうに伝えて、はっきり伝えております。対馬市は売却をしても構いませんと、自衛隊のほうとしては購入をしていきたいという意思は、小船越の地区、役員のほうには伝えております。

今後、役員会の中でまた話をしてもらって、地区民の同意というか、了解をもらえるように市役所と一緒になって進んでいきましょうという話合いまでできております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　今、俵副市長が答弁されましたが、それは、防衛施設局のほうにはその旨は伝えていませんよね。自衛隊のほうに伝えているのか、防衛施設局のほうに伝えているのか、それはいいです。

いいですけど、やはりそういった前向きな姿勢を今地区とも、いろいろと協議する必要があると思います。地区の要望もあると思います。それを、やはり私たちは市長に攻めてほしいというのが、そこなんですよね、スピード感を持って。俵副市長が行くんじゃなく、市長が行かなきゃ駄目なんですよ。トップが行ってトップと話をしていかなければ、市長、いいですか、トップが行かなきゃ駄目なんですよ、最終的には。よろしいですか。

対馬市の、やはり今こういった問題、対馬市は要望を、国にお願いをやはり行きます。長崎県にも行かなければなりません。市長は、知事選挙が終わってもう４か月たってますが、いろんなところで平田知事とも会うと思います。会ってると思います。しかし、やはりしっかりとした要望活動はまだやっていませんけども、知事室にはいつ行かれる予定なのか、まだ行ってないと思いますけども、そういった計画はあるのか、そこを答弁してください。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　今質問があった答弁に答える前に、この小船越地区の旧浅海中学校の自衛隊への売却の件で、ちょっと少し議員のほうが勘違いされてあるんじゃないかなと。要は、ここは自衛隊の増員とか増強とかじゃなくて、あくまで旧浅海中学校を訓練場として活用をしたいという自衛隊、防衛施設局側からの要望がありまして、そのことによりまして、市としては売却をしようということで進んでいるということでございますので、これは自衛隊のほう、増員とか基地化とかそういったものではないということだけは、この場ではっきりと申し上げておきま

す。

それから今、県知事のところのほうに挨拶ということでございますけども、議員も先ほど申されたように、これまでも何度となく新知事のほうとはお会いをして、御挨拶はしているところでございますけども、ただ、改めて知事のほうには御挨拶に行こうとは思っているんですけども、私のほうも、そしてまた知事のほうもいろいろと混んでおりまして、なかなかその調整がうまくいきそうになかったということで、まだ知事のほうには日程調整等のお願いはしてないところでございますので、今後、日程調整等をお願いをしていきたいというふうに思っているところでございます。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　行く予定であるということでは分かりました。やはり国のほうには、市長も何度か国のほうに、いろんな対馬、長崎県選出の国会議員とか、いろんな形で要望活動はされております。

対馬はやはりまず長崎県、そして国を、一つの陳情・要望活動はしていくのは、これから先の対馬市における、もうそういった国、県を頼らなければ、今、対馬市は自分たちの本当に財源では厳しい状況であるというのは、もう市民皆様そして我々議会のほうも認識をしております。国会議員もそして長崎県知事も、一人の人間でございます。ですから、市長がやっぱり熱意を持って要望・陳情に行けば、必ず結果は後でついてきますんで、ぜひ、この議会終了後からでもいいですので、攻める行動をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか、市長。

有人国境離島法の延長に向けて、令和９年度からのまた１０年間、これは今まで市長をはじめ市議会、各異業種の団体の皆様、市民の要望・陳情活動の努力の結果、延長は国会中で今審議をされております。この延長は成立をするだろうという予測で、予想というか情報でございます。

市長、この延長はします。しかし、次の攻める政策、これは、国会等への要望はどういったことが必要でしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　有人国境離島法につきましては、国会議員の先生方の情報の中では、今国会中にまず実現はするというようなお話をいただいているところでございます。

ただ、我々要望する側も、またそれを受けてくださる国会議員の先生方も、同じ考え方というのが、要はこれが国会で可決されるだけでなくて、内容的に今度の第２次の有人国境離島法の場合は、５離島ぐらいが増える予定ということでもありますし、予算的にもこれをもう少し増やしていかなければならないというようなことを、逆に国会議員の先生たちも、そのようなことをおっしゃっていただいておりますので、我々も今後は、この可決・成立した後は、またこれの拡充に向けて動いていかなければならないというふうに考えているところでございます。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　そうです。今延長だけでは、延長プラスこういった補助事業の対象拡大、そしてやはり一番は予算の増額に全力で関係機関と協力して取り組んでいかなければならないと思っております。

今、準島民割引の拡大や様々な事業の拡大、令和７年度の対馬市の交付金補助対象事業費は、令和７年度で国が、資料を頂いているのが８億４，２３４万円、そして県から２億６，１６４万円、対馬市負担が大体２億７，０００万円ぐらいということで、今、令和８年度の国の国境離島予算は５５億円でしたかね。この５５億円を、この令和９年度からやはり倍まではちょっと厳しいかも、そこに力を入れていかなければならないと思っております。

まず、市長のほうもやるということですんで、今から先この要望活動に対して、総務部長、旅費等の予算は確保されてますか。要望活動への予算、よろしくお願いします。

○議長（春田　新一君）　総務部長、犬束幸吉君。

○総務部長（犬束　幸吉君）　お答えします。

当初予算につきましては、もう予算確定しておりますので、今後、その要望の中身次第につきましては、必要に応じて対応していきたいと思います。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　やはりこの要望活動が重要でございますので、そこはしっかりとした予算を、旅費とか宿泊費等の要望活動への予算はしっかり取っていただきたい、よろしくお願いしときます。

次に、中東情勢のほうに移りたいと思います。今、やはりこの対馬市内において、先ほど市長も認識はされておりますけども、いろんな部分で影響が出てきてるのは、もう間違いない。その中で、様々な部分で影響が出てきてるのは、思いますけども、今回、商工会がアンケートを取られたと思います。各事業所のアンケート、そのアンケートを取られて、今、どのような一番影響が出てきてるのか、どの部分でどう影響が出てるか、もしよければ、観光推進部長の平間部長、お願いします。

○議長（春田　新一君）　観光推進部長、平間博文君。

○観光推進部長（平間　博文君）　糸瀬議員の御質問にお答えいたします。

糸瀬議員がおっしゃるとおり、対馬市商工会が会員向けにアンケートを実施しております。５月２２日から６月の５日にかけて、会員向けにアンケートを実施した結果、５０社ほどから回答をいただいております。その中で、調査の中で、運輸業、卸小売業、食品製造業、電気、ガス等において、当然、燃料価格の高騰と石油製品の調達が難しい、そういったアンケート内容の結

果を商工会のほうからいただいております。

以上です。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　対馬は、いろんな事業をする中でやっぱり燃油、燃油対策が一番重要じゃないかなと私は思うんですけども、今、原油もいろんな第１次産業を含め燃油が高騰しております。今回、補正予算で９，０００万円近くの補正予算が燃油対策で上がっております。

しかしながら、まだまだ今後この情勢は分かりません。未知数でございます。今、アメリカとイランが、停戦に向けて合意ということで、今週ニュースがあっておりますけども、これもまだはっきり分かっている情報ではありませんので、合意に向けたということですけども、まだまだ対馬に今後影響が出てくると思います。

その中で、今、この当初予算、３月に成立されました。その後、この３か月間で全国的、そして対馬市でも中東情勢の影響で大きく情勢が変わってます。重要なのは、やはり市長がいつも掲げています誰一人取り残さないための市民生活への影響です。今回の中東情勢の影響に、経営が厳しく倒産を余儀なくされている事業者が全国的に増えてきているということです。

本当に今、対馬市内に困っている事業者や団体、市民に対して手を差し伸べる必要があると私は思っております。今、３月の当初予算を査定する際に、当初予算を査定しますよね、３月前に。それで必要な事業予算、そうではない、急ぎではない予算があると思います。この予算の、今、状況が変わってきている状況で予算を組み替える考えは、市長、ございませんか。この中東情勢の影響がなった場合、もうなってきてます。やはり対馬市には、財源が大変厳しいと思います。国のほうもなかなか今、補助のほうも今年度、今回２，１００万円ぐらいしかありません。ですから、そういった予算の組み替えを行うという考えは持たれていないのか、そこを答弁お願いします。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　議員、おっしゃられたように、大変厳しい状況であるということは認識しているところではございますけども、この当初予算につきましては、各事業の必要性や優先度を十分に検討した上で編成し、議会の御承認を賜ったものであります。

確かに中東情勢のほうは、特に当初予算をある程度組んだ後で、いろいろ状況が難しくはなっているところではございますけども、中東情勢の悪化の影響につきまして、現時点におきましては、直ちに事業の見直しや予算の組み替えは行う状況にはないというふうに考えているところでございます。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　今回、今、本年度予算で財政調整基金やふるさと納税とかを含め

て３５億円ぐらいやったんですかね、繰入れをされております。大変厳しい財源の中で、先ほど言ったように、本当に今必要な事業なのか、それを私は言ってるんですよ。今、急ぎの事業なのか、物価対策にやろうよと、これを組み替えようよと、そういったことを言っているんです。

ですから、各部署でこれはまだ急ぐ事業じゃないのはあると思います。優先順位、優先順位と言いますけど、これが優先順位じゃないですか、物価対策が、今。これが優先順位なんです、市長。

ですから、これを我慢してくださいじゃなくて、いろんなところで、部署で今年事業を組んでますけど、いや、今年はもうこの事業は待ってください、待とうと、この物価対策に予算を充てようとか、そういった考えはないのかと言っているんです。今現在では、予算を３月で組んだときは、それは分かりますよ。だから、情勢が変わっていると言ってるんです、３月から今４か月で。予備費は何に使われる予定ですか、予備費の６，０００万円は。市長、予備費の６，０００万円組まれてますけど、これは何でしょうか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この予備費の６，０００万円は、年間の予算執行時に、どうしても予期できなかったような問題が多々ございます。ただ、先に延ばすことが可能であればそのようにいたしますけども、どうしてもそのときに必要であるというような判断をした場合については、この予備費を活用して行政を動かしていくということで、予備費のほうを組んでおります。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　予備費というのは、先ほど市長も言われましたけども、特に物価高騰分にも使われても構わないというお金ですよね。本来ですと、何でもというか、災害とか、一時的な災害とか、対策とか、そんなのに恐らく組まれてると思いますけども、今こうやって情勢が厳しくなってくる中で対馬島内のいろんな情報、いろんな部長が聞かれていると思います、部長たちがやっぱり一番。ですから、そういった状況をやはりいろんなところで注視しながら、今後は対応していただきたい。それをよろしくお願いします。

それと、今、いろんな事業をされる中で、私は１点気になるのが対馬博物館でございます。対馬博物館の事業、毎年一億数千万円の赤字です。一億数千万円、これが、今年１年間でも休業したら１億５，０００万円ぐらい浮くんです。１億５，０００万円を浮かそうと思えば、１年間博物館を休業したらいいんじゃないですか。そういったところで財源を、本当に必要なところかというのを私は言ってるんです。

必要なところに財源を充てる、そういった考えを持たなければ、何もかも当たり前のように毎年のように財源を使って、当たり前の事業をやって、そうではなくて、いろんな事業をもう一度各部署部署で見直して、ここは今年要らない事業であるとか、我慢しようとか、そして燃油対策

とかいろんな物価対策に充てる、そういったことを考えていただきたい。市長は、誰のために市長をやられてるんですか。

○議長（春田　新一君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　まず、確かにそのような考え方はあるものとは考えますけども、ただ、今おっしゃられた、例えば対馬博物館とか、こういったところについては、これを１年間もしくは２年間休止をするとか、そういったことでは、今までやっと築き上げてきた対馬市の文化財の保護、そしてその発信に対しまして、これがまた後れを取ってしまうというようなことで、これは必要な事業であるというふうに私自身は考えておりますし、この当初予算の査定の中でも、余分なもの、議員おっしゃられるように、急がないものについてはどんどん先延ばしをしております。今ついている予算というのは、要らない予算というのはほとんどありません。みんな必要な予算であります。

以上です。

○議長（春田　新一君）　８番、糸瀬雅之君。時間が来てますので。

○議員（８番　糸瀬　雅之君）　分かりました。まず市長、最後に言いたいのが、市長はやはり対馬市民２万６，０００人のために――市長、こっちを見てください。市長は２万６，０００人のためにいろいろな、国や県に、いいですか、今後はどんどん動いてください。対馬島内のことは、一宮副市長、俵副市長に任せて、市長は国や県に予算の獲得に向けて動く、最後にそれは私は言いたい。

以上でございます。

○議長（春田　新一君）　これで糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（春田　新一君）　暫時休憩します。再開を午後２時１５分からとします。

午後１時57分休憩

午後２時15分再開

○議長（春田　新一君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。４番、東圭一君。

○議員（４番　東　　圭一君）　皆さん、こんにちは。４番議員、会派未来改革の東圭一でございます。本日は、大きく３つの項目について質問させていただきます。詳細につきましては、それぞれの質問の中で順次お尋ねいたします。

それでは、早速質問事項１点目、市議会における一般質問の意義及び市政運営について質問いたします。